**№62　テーマ『仕事と人生（人生三観）』後半**

**講話日2019年5月10日**

**それでは後半の話に入っていきたいと思います。社会とは何か。これはやはり社会というものの中でですね。いろんなことをしていく場合に、基本的に心得てないと、自分自身が不幸になってしまう原因を作ることになりますから、その意味でもやはり忘れてはならない重要な課題であります。**

**最初、社会性とは何なのかってことについて、もう一度ちゃんと原点にかえって考え直して頂きたいっていうことを申し上げました。その次に第２番目ですけどですね。問題や悩みは人間を成長させるために出てくる。だから問題にたじろいではならない、ひるんではならない、問題から逃げてはならない。これはやっぱり社会、人生を生きていくために非常に大事な心構えであります。理性的な人は問題が出てくることを嫌うんですね。理性っていうのは、問題が出てきたら間違っちゃったと思うので、問題の出てこない道ばかりを探して求めるってのが、理性的な人間の生き方です。問題の出てこない道がいい道なんだと思ってしまうんですね。問題の出てくる道は問題だ、問題の道だ。そういうことを思ってしまうのが理性です。だけど人間そのものは不完全ですからね。だから問題の出てこない道はありません。問題の出てこない道を求めるのは迷いです。**

**誰と結婚しても問題と悩みが出てきます。誰と結婚しても自分が不完全になるが故の問題だけは必ず誰と結婚しても出てくるんですよ。これは避けて通ることができません。宿命的なもんです。どの会社に就職しても自分が不完全なるゆえの問題は必ず出てきます。自分ゆえの問題は必ず出てきます。これも避けられません。だけど問題っていうのは何で出てくるのか。問題がなぜ出てくるのかというと、問題ってものは問題がなかったら、悩みがなかったら、人間は成長しない、会社は発展しない、社会も発展しない。問題がなかったら問題がないじゃんなんてこと言っちゃったりなんかしちゃったりなんかして全然何もしない。問題が出てくると何とかせんといかんよなと思って、考えて何とかしようとするから、少しずつ良くなって問題を乗り越えられていくというね、道が開けてくるわけであります。**

**とにかくすべての問題は、自分を成長させるために出てきてくれてるんだという腹構えをなくしたらいかん。すべての問題は、会社を発展させるために出てきてるんだということを忘れたらいかん。出てきた問題を、まあこれぐらいはいいかと思っとったら、とんでもない落とし穴に落ちる。問題に気づいたら、即刻その問題を処理する為の活動にすぐ入らないと、問題を放ったらかしにして、問題を放っておいて悪いことやっておいたら、大きなつまづきが必ずやってくる。問題ってのはなぜ出てくるのか。問題が出てくる瞬間ていうのは、今このことに全注力、全勢力を投入しろよ、これを解決しないと何も開けてこんぞということをね、教えてくれるのが問題であります。問題が出てくる時があるんだ。その時を外したら問題はなかなか乗り越えられない。問題を発見したらすぐそれを何とかしようと思う、そういう努力をし始める。そのことによってしか次の道は開けてこないですね。問題も悩みも会社を発展させるために出てくる。社会において起こってはならない事故も犯罪も全部何で出てくるのか。事故と犯罪のない社会ないんですよ。何で事故と犯罪が起こるのかと、社会を良くするため。犯罪もない事故もない。本当に吉幾三さんの歌じゃないけど、車もねえ、テレビもねえ、それじゃあもうなんにも変化が起こらない。問**

**題もない、事故もない、犯罪もない。社会は停滞する。何もなかったらこのままでいいじゃんってなりますからね。だけど宿命的に必ず犯罪は起こる。事故が起こる。これは人間も社会もみんな不完全ですから、事故の起こらないことはない。犯罪が起こらないことはない。どんな生き方をしておっても必ず人間のすることは欠けてるところがある。至らないところがある。だから問題が起こる。だけどそれを乗り越えていくことによってだんだんだんだんよくなる。それが歴史だ。**

**とにかく問題を忘れるような弱い人間になったらいかん。問題が出てこないことを願うような弱い人間になったらいかん。問題は出てきて当たり前だ。出てこなきゃおかしい。だけどやっぱり責任のやる職、役割になるとね、問題が出てきてくれたらと困るなあと思ってしまうのが人情で、ついつい問題が出てこないことを願うんです。それはやっぱり逃げの経営だ。逃げの人生だ。問題は避けがたい。問題がないと思ったら、それは問題があるのに見えてないという一番危険な状態だ。問題はない、そんな瞬間はない。いつでも問題はある。問題があるのが当然であり、問題があるのが健全なんだ。問題がないのは異常事態だ。だからよくいろんなことを点検して、色々調べ回って点検して、だいたい報告というのは問題ありませんでした、っていう報告で一件落着っていうか、よかったねということになるんですけどね。調べたのに問題が全然ない。そんなバカなこと絶対ない。調べたら人間のやったことの結果だからね、必ず問題が出てきて当たり前であって。問題がないってことは、問題を見落としてるんですよ。だいたいこれまでは点検といったって本当のおざなりな点検でね、よっぽどの欠損がない限り、問題発見するなんてことなかった。これぐらいの程度ならまだ持つやろう、まだいいやろうと思って、一応この問題はなしという報告をして、みんなよかったなあと言って終わるんですよ。それがこれまでの慣習だったんでね。問題があるって言ったらとんでもないことになってしまってね。問題があるなんて言ったもんなら吊るし上げだ。誰か問題があるって発見したらね。その場所だけに終わらない。全国にあるいろんなところ全部点検。全部点検セントバーナードね。どれだけ金がかかるかわからん。どんだけ人手がいるかわからん。本当の会社の経営が傾くくらい点検で金がいる。口が裂けても問題がありましたなんてことは、そんなこと言ったらいかん感じですよね。だからほとんどの点検は問題なしなんですね。飛行機が飛ぶ時には点検してるんですよね。だけど問題ありましたなんて報告はめったにないんですよ。よほど大きな欠損じゃないと。問題なしで飛ぶ飛行機ほど、恐ろしいものはないですよ。みんな問題なしで飛んでから、いろいろ飛んでいるうちに問題が出てきてみんな墜落するんですから。点検というのは、こういうところに問題がありました、だけども当面大丈夫なようにちゃんと補修しましたから大丈夫ですというのが本当の点検なんです。とにかく心してですね。問題がないというのは絶対おかしいということを常に頭において、人生は生きていかなきゃならない。家庭に問題が合って当然、職場に問題があって当然、すべてに問題があって当然。問題に気づくというのが最大の健全性だ。問題がないってことは不健全だ。おかしい。怠けてる。いい加減な点検をしているから問題がないんだ。**

**だからこそ組織はみんなで問題点を補い合って、みんなで助け合って、そしてお客さんに渡す時には、完璧な状態で渡せるように、みんながお互いに足らざるところを補い合って、欠けたるところを補い合って、自分の至らなさを人に助けてもらって、そして完璧な仕事に近づけていく、それがプロの仕事ですよ。一人で完璧なんて絶対ありえない。必ず落ち度がある。だから助けてもらわなきゃならないんだ。世間では助けてあげることばかり立派や立派やって申しますけどね、助けてあげるだけじゃあ相手を惨めにする。本当に人間として生きるためには、人間は不完**

**全だから助けてもらう必要がある。助けてもらえる力が必要だ、助けてもらえる人間にならなきゃならない。あいつのことなんか助けてやるかってそんなふうに思われたらあがったり。みんながお互いに助け合って、至らないところを補い合いましょう。それが組織力だ。多くの人の目を通して点検して、そしてその問題を作った人を責めないで、人間は不完全だから。問題を作った人を責めないで、みんなでその問題をそっとお互いにみんな手を貸して、補い合って、そして完璧な姿に近づけて仕事を終えるっていうね。そういう組織力の力っていうものをもっと発揮していかないといけないと思います。お互いに助け合う気持ちがあれば、職場は居心地がいいですからね。だからそう簡単には辞めませんけど、個人に責任をあまりにも多く課すとですね、やっぱり辛くなって嫌になって辞めてしまう人も出てきます。**

**あと組織力はみんなで補って、みんなで足らざるところを補い合って、助け合って、そして協力し合って、みんなで仕事を仕上げていくってのが組織ですからね。そういう愛の関係性ってものをですね、組織力の根底にやはり据えないといけない。責め合っては組織は崩壊する。責め合ったら家庭も地獄だ。問題が出てこないことを願ってはならない。問題は常にあるんだから、問題の出てこないことを願うような馬鹿な人間だったらいかん。問題が出てくることを恐れるような弱い人間になってはならない。問題は一人を責めないでみんなで修正し、補っていこうという会社の風土っていうか社風を作り上げていかないと、本当に消費者から、皆から賞賛される企業には成長していきません。問題はあって当然。なかったらおかしい。問題を乗り越えるためにはみんなの力が必要だ。一人を責めてはならない。とにかく問題は自分を成長させるため出てる、どんな問題でも自分の身に降りかかる問題は全て自分を成長させるために出てきてくれてる。そういうふうに解釈セントバーナード。どんな問題でも会社を発展させるために出てきてる。だから全社員で取り組まなければならない。一人に任せてはならない。会社の問題は全社員で取り組まなければならない。これは組織力だ。社会の問題も全部社会をよりよくするために事故は起こり、犯罪は起こるのである。事故が起こることによって、これまで気づかないことに気づいてですね。こういうところを修正しておかないといけないんだな、こういうことに気をつけないといけないんだな、ということに、初めて気が付くわけですよね。そういうふうに、だんだんだんだん人間は賢くなっていく。とにかく問題を忘れるような弱い人間になってはならない。問題が出てこないことを願うような弱い人間になってはならない。人生には常に問題がある。子どもにも常に問題がある。だけどお父さん、お母さんはなかなか子どもの問題に気づいてあげられないんですよね。そして子どもが首吊って死んじゃったら、親は自分がそのことに気づかなかったことに気づかないで先生を責める、学校を責める、人を責める。親は悲しむだけ。責任逃れだ。子どもの問題なんだ。真っ先に親がその子の悩みに気づかなくてどうするんだちゅうことですよ。みんな責任転嫁だ。とにかく子どもも常に問題を抱えてるんですよ。常に子どもも悩んでる。どんなにガーガー楽しそうに笑って遊んどっても、みんな問題を抱えているんですよ。みんな悩んでるんですよ。お母さんも悩んでる、お父さんも悩んでる、おじいちゃん、おばあちゃんも悩んでる。みんな悩んでる。社長さんも悩んでる。部長さんも悩んでる。課長さんも社員もみんな悩んでる。みんな悩み抱えている。何の問題もないような人は誰もいない。どんな問題を抱えて生きているのかを知ってあげることが愛だ。その人の問題に気づいてあげられないのは、愛なき組織だ。問題を解決してあげる必要はない。問題に気づいてあげることが大事なんだ。ああそんな問題で苦しんでたのか、辛いよね。辛かっただろうね。それだけで勇気をもらえるんだ。誰も気づいてくれない。これほど悲しいですね、居たたまれないことはない。とにかくいっときも早く気づいてあげることが大事だ。みんなとにかく問題を抱えてるんだから。また本人がその問題に気**

**がついてないこともあるかもしれない。だけども現実的に言って、みんな問題を抱えている。みんな悩んでいる。そのことを常に頭に起きながら、すべての人と関わることが大事であります。**

**だけども現実的に言って、みんな問題を抱えている。みんな悩んでいる。そのことを常に頭に置きながら、すべての人と関わることが大事であります。社員だけじゃない、子どもに対しても、おじいちゃんおばあちゃんに対しても、みんな悩んでる、問題を抱えている、苦しんでいる、みんな助けてもらいたいと思っている。だけど大きな問題を抱えれば抱えるほど、みんな誰にも相談しないんだ。一人で苦しんでいるもんなんだ。早くその問題に気づいてあげる。気づいてあげることが大事であって、問題を解決してあげる必要はない。時には解決してあげてもいいんですけど、だけど本当はその人がその問題を乗り越えて、自分で解決していく、手助けをしてあげることが大事であって、こちらで全部解決して、感謝してもらおうとなんて思ったら飛んでも八分、歩いて十分。余計なお世話よ。問題は気づいてあげることだけで十分だ。気づくだけで十分だ。会社の問題もみんなが、全社員が協力して乗り越えていくんだ。だから気軽に問題を発表できる。問題を言える。自分の責任にされるからみんな言わないんだ。組織力が勝負だから、どんな問題でもみんなで乗り越えていこうという、そういう社風をですねつくらないといけない。できるだけ多くの人が関わって、問題や悩みやいろんなことを処理していこうという社風を作らないといけない。一人に責任を課すればね、会社にいづらくなってしまう。それは組織力じゃないからだ。組織じゃないからだ。個人に切り離されてしまっちゃったから辞めるんだ。誰も悩みに気づいてくれないから辞めるんだ。みんなで何とかしようと思ったら、なかなか辞められない。かえって愛を感じるし、居心地よくなってくる。とにかく問題ってものにどう対応するか、問題ってものをどういうものだと考えるか。これも非常に大事な人生の課題であります。**

**3番目は、物事はプラスにもマイナスにも解釈できる。だから全ての出来事を自分の人生にプラスになるように解釈する必要がある。物事はプラスにもマイナスにも解釈できる。だけど能天気にですね、プラス思考やっていってマイナス面のことは全然放っておいて、全部プラスに解釈したらいいんやってのは、あまりにも偏った、能天気な片手落ちの生き方なんですよね。どんなことにも必ずプラス面もあるけど、マイナス面もあるのだから、この問題のこのことのマイナス面はなんなのかちゅうのを知っておって、そしてこのマイナス面が、人に悪い影響を与えないように配慮しながら、できるだけ物事をプラスの方向性に動かしていこうという、この両面をちゃんと考えていないと、本当の、健全な人生は歩むことはできません。**

**大事なことはどんなに素晴らしいことをしても、なにかすれば、必ずそのことによって、あんな素晴らしいことをしやがってちゅうて、余計なお世話をしやがってちゅうて、人がした立派なことでも、あんなことしやがって、あんなことしてくれなかったらいいのに、あんなことをしてくれたから、俺はこんなに損したちゅうね。人が何かすればですね、そのことによって不利益を被る人間がでてくるのがこのシャバ世界なんですよ。どんなことをしても必ずそのことによって利益を被る人間が半分、そのことによって不利益を被る人間も半分出てくるのがシャバ世界、社会の現実なんですよ。俺のことを好きな人は半分おるけど、俺のことを嫌いな人も半分おって、それが現実で、それが真実で、それが社会の実態なんですよ。そのことを知っただけでもいいちゅうんじゃなくて、そのことがわかったら、自分のやったことで迷惑を被ったり、不利益を被った人間への配慮をですね、ちゃんと忘れない。自分のやったことで不利益を被った人間への心遣**

**い、思いやりをちゃんとしていくというのが、心ある人間の生き方であって、自分のやったことで不利益や迷惑を被る人間がおったとしても、そんなことはしょうがない、知ったことかって放っておいたらそれは心無い人間ということになるんですよ。心ある人間になろうと思ったら、自分のやったことで迷惑を被る人間への配慮、心遣いを示さなけらばならない。それが心ある人間っていうんですよ。心遣いをするから、心があるんですよね。心遣いをしなければ、心無い人間。心無い人間ていうのは、心がないんだから人でなしなんだ。**

**案外と現実の世界には、心無い、人でなしが多いもんですよ。とにかくどんなことでも、プラス面も必ずあるんだから、どんなに嫌なことを思ってもその嫌なことを、これからの自分の人生にプラスになるように解釈していくっていう努力をしないと、人生はいい方向に動かないんですね。嫌なことを嫌なことだと思って落胆しておると、ますます人生は悪くなっていくというか、マイナスの方向に動いてしまうんですよ。人生がいい方向に動くか、マイナスの方向に動くかは、物事の解釈の仕方で決まるんですよ。人生は解釈一つ。解釈が人生を支配する。どのように解釈するか、解釈力っていうのが非常に大事なんですね。どんな問題が自分の身に降りかかっても、どんな問題が自分の周りに起こっても、一体この問題は自分に何を気づかせようとして、こんな問題が自分に降りかかってきたんだろうか。なぜこの問題が出てきたのだろうか。一体何を教えようとして、この問題が出てきたんだろうか。このことから一体何に自分は気づけば成長できるのだろうか。そういうふうにプラスにプラスにですね、自分の人生にプラスになるように、物事を全部解釈していく。そうすると人生はだんだんだんだんプラスの方向性に動いていくということになってしまいます。これを運命というんですね。運命は自分で作るんですよ。運を導いていくという、そういう命を運ぶということを運命という。命を運ぶのは自分だ。宿命はこれは如何ともしがたい。産まれながらに自分に備わっているものだから、宿命は如何ともしがたいけど、運命は自分で、意志で命をプラスにもマイナスにも持っていくことができる。これを運命というんですよね。運命を支配するものは解釈力だ。病気になっても、この病気になってよかったと思えるかどうか。この病気は一体何を自分に教えてくれているんだろうと解釈して、そしてこの病気から学んで、そして自分を成長させていく。そうすると病気は治るんですよ。病気っていうのは、肉体の病のことを病気と言ってると思ってる方もいらっしゃると思いますけど、病気っていうのは字のように気の病なんですよね。肉体は病んでも、気は病まなければ病気じゃ無いんですよ。だから肉体は病んでも、気が病まなければ病気は治るようになっているんですよ。肉体の病をどういうふうに解釈するか、理解するかによって、病気が悪化したり、または病気が治ったりということがあるんですね。病気は気の病です。自分の心の持ちよう、病気に対する解釈を改めれば、どんな病気でも改善するっていうか治るように動いて、悪くはならない。**

**よく余命３ヶ月といわれるような末期ガンの患者さんでもですね。自分の心の持ちようで、ガンはあっても自分のしたいことをして愉快に生きていたら、いつの間にかガンは進行しなくなって、ガンは縮退して、ガンはあっても健康っていうそういう状態に戻れるっていうですね、そういう報告は全世界からいっぱい出てきているんですよね。病気は気の病です。気持ちの問題なんです。気を病んだら病気は悪化します。気を病まなかったら病気は治るんですよ。病気のこと忘れてしまってたら、病気のこと気にしないからね、病気は進行しないですよ。この病気は一体自分に何を教えてくれてるんだろうと思ってですね。これまでの食生活を改めたりですね。これまでの心の持ち方や自分の生き方を修正できたらね。そのことによって、肉体の病は全部治ります。**

**気が病まなければ、病気があっても病気じゃない。病はあっても病気じゃない。心が悩んだらね、必ず肉体のどこかに病気が、病ができます。心が病まなかったら肉体の病はできにくいですし、肉体の病があっても治る。昔からよく馬鹿は風邪をひかないと申しますけどね、馬鹿は全然そんな気を病むことないから、馬鹿になったら全然病気になれないよね。なりたいと思ってもなれない。健康になっちゃう。病気になりかけても治っちゃう。全部自然治癒力で治っちゃうんですよ。命は健康に生きるように働いていますから、いつも。病気になるのは、その病を気を病むからです。気にするからですよ。とにかくはあらゆることをプラスに解釈するという、そういう自分で、自分の人生にプラスになるように、解釈していく。一体このことは自分に何を気づかせようとして、こんな問題が今起こっているんだろうか。まあそういうことです。全ての現象から何か人が学ぼう、成長しようと思ったらね、すべてはうまく運びますし、いい方向性に動きます。これもやっぱり人生の重要な基本原理ですね。**

**すべての問題はプラスにもマイナスにも解釈できる。両面を知っておる必要がある。だけども実際の行動は、物事をプラスに解釈して、自分の人生にプラスになるように物事を解釈してる。どんなに酷いこと言われても、それを自分の人生にプラスになれる解釈していく。そうしたらみんなから好かれる人間になりますよ。どんなひどいこと言われても、ありがとうよく言ってくれた、感謝します、これから十分気を付けます、ありがとうって言っておったら、非難しても非難しがいが無いっていうか。相手を傷つけようと思って言ったことが、相手のためになっちゃったりなんかしちゃったりなんかして。困っちゃうなあとね、相手は自分の言ったことに対する反応が、相手から出てこないのでガックリするくらいになってしまって。とにかくは物事をいい方に解釈するって力が非常にすべてのことをいい方向に持っていくことになります。**

**4番目ですね。社会においては自分の価値は、他人が決定するという原則が働いている。もちろん自分で努力して、自分の力を伸ばしていって成長するんですけど、どんなに凄い力を持っていてもですね、社会は他人がすごいと言ってくれないと価値が出ないっていう。そういう関係性になってるんですよ。自分の存在価値は他人の評価によって決まる。就職でもやっぱりその会社の評価というものが自分にいいように評価してもらったので就職できるってことになるわけですから。全ての事がそういう社会においては他人の評価ってものはこの社会の中で生きていくことができるかどうかの基準になるわけです。だからといって、他人におべっか使って、媚びへつらっていたらいいというんじゃなくて、自分なりには努力をしなければなりませんけども。この単に独りよがりな努力をして、なんで人は俺のこと認めてくれないんだろうというふうに思うってことは、これはこの社会ってものはどういうものなのかってことを知らないがゆえの嘆きですね。**

**有名な孔子のですね、孔子という聖人のですね、言葉にもですね、「人の己を知らざるを嘆くなかれ　そのよくすることを無きを憂うな人が評価してくれないことを嘆くんじゃなくて、人が評価してくれる状態になるまで自分が努力をして、まだできていないというということを、かえって嘆くべきだと。認めるも認めないもない。認めざる得ないというとこまでいったら、必ず人は認めてくれるので、まだ認めてもらってないちゅうことは、まだそれほど評価されるとこまで自分の力がいっていないってことの証明なんだ。だから人が認めてくれないなってことを言って、嘆いておるようなそういう段階では駄目だということを言ってるんですね。「人の己を知らざるを嘆くなかれ、そのよくすることなきを憂うな」自分が十分な力をまだ作っていないってことを、かえって憂うるべきだというね。そういうことを言っております。とにかく社会ってのは、**

**人の評価によって決まる。だから独りよがりで自分の努力をするだけじゃなくて自分のした努力、自分の力をどのように人のために活かすか、使うか。どうしたら人が喜んでくれるかってことを考えていかないと、社会というお互いに役に立ち合うって関係性で、価値が出てこないんですね。自分ですごいって言って、威張っているだけじゃ独りよがりだ。人の役に立ってこそ価値が出てくる。人の役に立たない力はあって無きが如し。**

**個性っていってもですね。個性っていうのは、自分だけのものというふうに思われていますけど個性というものが評価されるのは社会ですから。だからこの社会によって評価されない個性はこれはまだ個性じゃなくって、独りよがりで身勝手で自分本位なそういうことなんです。個性っていうのは社会によって評価される言葉ですから、個性ってのは人の役に立って初めて個性だということを忘れてはいけない。個性があるというと人の役に立たなきゃ、個性は個性としての価値を持たない。人から評価されない個性は、独りよがりで、身勝手で、わがままであるだけだ。個性も人から評価されて初めて価値がある。であるがゆえに、自分の個性をどうすれば人の役に立たせることができるだろうか。どうすればこの力で人が喜んでくれることになるだろうか、ということにはいるひと努力をしないと、個性も宝の持ち腐れ、役に立たなければあって無きが如しということになってしまいやすい。そういう意味でもとにかくは、社会っていうものを考えると、人の役に立つ生き方、人の役に立つ仕事の仕方、人の役に立つことを喜びとする感性、そして人に必要とされる人間になろうっていう思いってのはやはり基本的にいつも心の中には持っていないといけないってことですよね。**

**特に命というものは常にいろんな人と、みんなと仲良く生きていきたいという欲求をみんな持ってるわけなので、どうしたらいろんな人と仲良く生きて、仕事をともにやっていくことができるんだろうってことは、常に考えていなきゃならない。これこそまさに人間的な愛の本質であります。愛っていうとなんとなく恋愛的なものを愛というふうに考えてしまう人多いんですけど、だけど人間的な文化としての愛、社会を生き抜く力としての愛っていうのは恋愛的な愛じゃない。我々が社会で生き抜くために必要とする、人間関係上必要とする、本当に大事な愛っていうのは考え方の違う人とどうしたら一緒に仲良く生きていくことができるんだろう。どうしたらいいんだろうと思うその心が愛なんだ。そういうことを考えてですね、こういうふうにしたらあの考え方の違う人も仲良くやっていけるんじゃないか、と考えることによってですね、愛の実力っていうのが磨かれていく。いろんな人と社会の中で、対立しないで問題を乗り越えて生きていくという力が愛の実力、愛の文化なんですね。**

**一般的に我々が愛って言っているものは、残念ながらまだまだ自然発生的な情緒・感情・本能・情熱というふうな、そういうレベルの愛を愛だと言ってしまってるんですけど。だけど人間ってのは文化を作る動物であって、自然発生的な力はまた人間的なものではない。人間的な愛っていうのは、これから我々が意識して作っていかなければならない世界が、人間的な愛の世界であります。そのことを愛を文化足らしめると言うんですけど、愛を自然発生的なものじゃなくて、愛を文化足らしめて、愛を社会を生きる力に変えていく。その為にも愛というものは情緒・感情・本能・情熱というもんじゃなく、愛というものは能力なんだ。理性という愛情の能力なんだ。だから愛の能力を成長させていって、愛の能力を成長させることで、愛の実力を作らないと我々は理屈で生じる対立を愛の力によって乗り越えていけるという、そういう素晴らしい生き方はでき**

**ない。 これからの人類の未来を考えるとですね、これからの人類の未来はどのようにして考え方や価値観の対立ってものを乗り越えていくか。この愛の能力を成長させて、愛の実力を作ることができるかどうかに人類の未来はかかっておると言って過言ではありません。**

**よく平和という問題が語られる時に、核兵器の廃絶っていうことがよく言われるんですけど。核兵器を廃絶してもですね、戦争はなくなりません。核兵器以外に武器をたくさんあります。例えば武器が全部なくなっても、人間が憎しみ合えば殴り合って殺し合います。決して核兵器の廃絶は平和の究極の課題ではありません。むしろ核兵器を作る能力を持ってしまった人間が、核兵器を廃絶することのほうがもっと恐ろしいです。核兵器を例え全部廃絶したとしても、核兵器を作る能力は残ってしまうんですよ。だから本当に核兵器廃絶設してしまったら、その次に出てくる問題は誰かが核兵器を作って俺が世界を制圧しようという悪巧みの人間が出てこないかもしれないと疑心暗鬼に陥ってしまって、全世界はお互いに密告を奨励して諜報活動が行われる。まさに不信の世界が作られてくるわけであります。核がないよりも、お互いが不信感を持って密告し合うような、探り合うようなそういう状態になることのほうがもっと世界は恐ろしいです。そのことのために我々は考えなきゃならんことは、あのユネスコという国連の機関がありますが、ユネスコ憲章の書き出しの言葉にどう書いてあるかっていうと。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と書いてあるんですよ。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」この心の中に築かなければならない平和のとりでこそ、まさに愛の実力、愛の能力、愛の文化だ。考え方の違う人とどうしたら仲良く生きていくことができるだろうかっていうことを考えて、こうしてみたらどうだろう、ああしてみたらどうだろうと、考えて悩んで答えを見つけ出そうとする。この努力が愛なんですね。これこそまさに自分の心の中に築かなければならない平和のとりでの原点だ。自分の心の中に平和のとりでを築けば、離婚の激増も止めることができる。幼児の虐待も防げる。宗教戦争も乗り越えられる。核兵器を廃絶することはかえって恐ろしい。そんなことも平和の問題を通して、考えてみてもらいたいと思います。**

**次は人間観ですね。人間とは何か？まず第一番目は、人間は誰でも長所半分、短所半分である。人間誰でも長所半分、短所半分。短所のない人間はいない。短所がなかったら人間ではない。短所がなかったら神様だ。だから人間である限り短所がなければならない。しかも短所は半分もなければならない。そして短所はどんだけなくそうとしても、短所はなくならない。短所がなくなったら人間じゃないんだから、短所はなくならないようにできてる。**

**なぜ短所はなくならないのか。何で短所はなければならないのか。それは人間の本質は心であって理性ではない。人間の本質は心だ。そして人間らしい心ってのは謙虚な心だ。謙虚な心を作ってくれるのは短所であって長所ではない。長所ばかりになってしまったら、人間は傲慢になるっきゃない。短所があってはじめて人間は謙虚な気持ちが湧いてくるという、そういう存在になれるんだ。短所がなくなってしまったら傲慢になるしかない。慢心が生まれてくる。謙虚な気持ちが湧いてくるのは短所があるからだ。至らないところがあるからだ。だから本物の人間であろうとすれば、短所を無くす努力なんて絶対にしたらいかん。短所は大事にもってなければならな**

**い。短所は無くそうとしてもなくならない。なぜなら宇宙から与えられた原理だから。長所も短所も半分ずつある。なぜ半分ずつあるのか。それは宇宙の摂理によって人間も作られたからだ。宇宙の摂理というのはプラスのエネルギー半分、マイナスのエネルギー半分。この半分ずつのプラスとマイナスのエネルギーが、エネルギーバランスを摸索しながら宇宙の秩序は作られている。このプラスとマイナスのエネルギーが半分ずつあって、このバランスによって宇宙の秩序をつくってる。これを宇宙の摂理というわけですよね。その宇宙の摂理によってすべてのものは作られておりますから、宇宙っていうのはみんな半分ずつになっているんですよ。プラスとマイナスも半分ずつ。陰も陽も半分ずつ、光も影も半分ずつ、裏も表も半分ずつ。男も女も、動物も植物も、真も偽も、善も悪も、美も醜も全部半分ずつあるんですよ。**

**悪もなくならないんですよ。悪がなくなったら何が善かが分からなくなっちゃうんですよね。悪は何が善かを教えるために存在する。悪が起こることによって良いことをしようと気持ちは出てくる。悪はなければならないんですよね、善のためには。人間もその宇宙によって作られたもんですから、人間の中には長所も短所もあるってことは、人間の中には長所が半分、短所が半分もあるということそういう構造があるんだ。これは右手と左手があるのと同じだ。両足があるのと同じだ。両肺があるのと同じだ。全部バランスでできてるんだ。だから長所も半分、短所も半分ある。そして短所は絶対なくならないから、なくならない短所をなくすような馬鹿な努力はしてはならない。自分の短所をなくす努力はしてはならないし、人の短所をなくさせるような努力もしてはならない。**

**努力をするなら、なくならない短所をなくすための努力をするんじゃなくて、伸びる長所をとことん伸ばすために努力するという努力の仕方を教えなきゃならない。人間が素晴らしい人生を生きようと思ったら、伸びる長所をとことん伸ばして、他人からすごいと言ってもらえるような、素晴らしい力を早く作ること。これが世の中を楽しく愉快に生きていくための原則だ。長所を伸ばせばどうなるか。長所を伸ばせば、短所は何にも努力しないでも短所は人間の味になる。人間味と言われるようになっていく。長所を伸ばさなければ、短所は単なる短所で人から嫌われるんですよ。長所を伸ばしていくと短所はだんだん目立たなくなってきて、長所を伸ばして、他人から一目置かれるようになってくると、短所は人間味、人間の味になってくる。あんなすごい力を持ってる人でもこんなところまで面白いね、人間としての親しみを感じちゃうよねなんてなこと言われちゃったりなんかしちゃったりなんかして。短所も魅力に変わるんです。短所があることが魅力になってくる。これを角熟というんです。みんな円熟を目指すんです。まん丸な円で欠けてるところがない、まん丸な円というのはなりようがない。人間みんな個性があって、失敗もするし、いろいろ凸凹だらけや。凸凹だらけの個性がまんまで、そのまんま東で熟していく。角熟という状態になる。角ばったまんま、さんまのまんまで、熟すんですね。これを角熟という。**

**長所を伸ばしていくと、短所は人間の味、人間味になってくる。長所も素晴らしいし、短所にも魅力が出てきちゃったりなんかして、全体として素晴らしいというね。長所も短所も活かして生きるという、そういう生き方ができるんですよ。そのためにはまず短所なんか放っておいて、長所をとことん伸ばすっていう努力をせんとバーナードね。すると短所は必ず人間味という味になってくる。短所が人間味になってくると、短所がその魅力になってくる。これは個性というものが完成された姿であります。目指すべきは角熟だ。円熟なんかじゃない。だけど短所が出てくる**

**と嫌われちゃいますからね。だから短所が出てこないように気をつけなきゃならない。だけど短所を無くす努力は絶対にしたらいかん。人の短所を発見したら責めるんじゃなくて、助けてあげたい、助けてあげようと思うのが心ある人間の態度だ。どう関わってあげたら、あの人のダメなところを補ってあげることができるんだろうかと思うのは愛だ。それは心ある人間のすることだ。心無い人間は人の短所を非難する。短所はなくならないのに、心無い人間は人の短所を非難する。心無い行為だ。最も素晴らしい短所の生かし方は、短所を隠すのでもない、出てこないように気をつけるのでもない。むしろ積極的に短所をさらけ出して「俺のダメなところここなんや、俺はここが苦手や、俺はここがダメなんや」だからみんな助けてくれないかといって、自分の短所をさらけ出して、人に助けてもらってありがとうという。これが最高の短所の生かし方なんだ。**

**組織においては、特に地位が上がれば上がるほど、短所をさらけ出さなければならないという宿命がある。なぜなら地位が上がるってことは部下が増えてくる。部下が増えてくればそれだけ仕事をさせなきゃならない。仕事させようと思ったら、自分で全部やってしまったらいかん。できるだけ自分の短所、不得手のところをさらけ出して、君代わりにやってくれないかなあちゅうて、頼んで仕事をしてもらって。それで相手を褒め称える。すごいね、君は本当にすごい。本当に君を雇って良かったよと相手を褒め称えてあげる。そしたらますます、その人褒められるから、その上司のために頑張ろうって気持ちになれる。これを部下を育てることになる。**

**昔から「実るほど頭を垂れる稲穂かな」って言葉がある。地位が上がって立派になればなるほどですね、頭が下がってだんだん謙虚になっていく。これは組織において大事なことなんだ。だけど一般的な組織は、地位が上がれば上がるほど傲慢になって、居丈高になって、俺の言うことをなんで聞けへんのやちゅうてですね。本当にパワーハラスメントで、部下を非難して、部下を叱りとばす。最低の上司ですよね。部下っていうのは、仕事ができないのが部下なんです。自分が気に入るように仕事ができたらもうそれは部下じゃない。自分と同等か、もっと上だ。自分も若い頃はそんなに仕事ができたわけじゃない。だけど長年努力を積み重ねてきて、ここまできたんだ。そのことを忘れてですね。今の自分の地位から部下を見て、ダメだ。足らん足らんちゅうてね、責めるということはね、お門違い、考え違いです。**

**部下はできないから部下なんだ。社員教育ってのはできないことをできるようにしてあげる、分からないこと分かるようにしてあげるのが教育であって、結果としてできたかできないかを判断したんじゃ裁きだ。教育じゃない、査定だ、支配だ。**

**とにかく地位が上がれば上がるほど組織においては謙虚にならなければならない。地位がが上がれば上がるほど、部下に頼み込んで仕事をしてもらわなきゃならない。自分の短所をさらけ出して、自分の足らざるところをもっともっとさらけ出して、ほとんどのことを部下にしてもらう。そして部下を褒め称える。そうすればその部下はもっともっと上司を尊敬して上司についてきて、そしていい仕事をしてくれる。地位が上がれば上がるほど我々は短所をさらけ出す勇気を持**

**たなければリーダーになれない。**

**でもあんまりにも短所をさらけ出し過ぎちゃったりなんかしちゃったりなんかすると馬鹿にされてしまう恐れがありますからね。あまりにも短所ばっかりさらけ出してしまってはいけないので、一つぐらいまで。一つぐらいはこのことについては、あの上司はすごいと言われるようなものを、何か一つは作っておいて、他のものはほとんど短所や短所や、ダメやダメや、不得手不得手ちゅうて全部人にやらせる。それが組織においてはリーダーの仕事であります。短所をさらけ出すことはリーダーの仕事。ますますそうすればするほど馬鹿にされるんじゃない、そうすればするほど部下はその上司を尊敬するんですよ。**

**とにかく人間誰でも長所半分、短所半分。どんな立派な人間でも他人から嫌われ非難され、軽蔑されるところが半分はある。それが人間なんだ。そうじゃなかったら人間じゃないんだ。それでいいんだ。別に恥ずかしがることはない。大事なことは長所は誰でもあるんだから長所をとことん伸ばすこと。長所の中でも天分のツボにハマるってことは、最高の努力の仕方ですね。天分のツボ。どんな人間にも天分がある。どんな人間にも天から与えられた独特の個性的な能力がある。どんな人にも天分という才能があると証明するのかっていうと顔だ。顔が違うってことは俺には他の人ができない何かができる。俺が最高って言えるものを俺は持っているんだと証明しているのは顔なんですね。顔が違うってことは、俺には俺独特の才能ってものがあるんだということの証明であります。なんでそんなこと言えるのか。顔の形を決めるのは遺伝だ。最近は遺伝ということだけじゃなくて、遺伝子だけじゃなくて、DNAってことがですね、よく言われるようになってきましたけど。**

**DNAを含む遺伝子というものがですね、人間の顔の形を決めるんだ。じゃあDNAとはなんなのか。遺伝子と何なのか。DNA ってのは能力が物質化したものなんです。能力が物質化したものが遺伝子であり、DNAだ。能力が物質化した遺伝子、DNAによって、人間の顔の形は決まって、その人間の顔の形は全人類皆違う。ということは顔が違うってことは、俺には俺独特のDNAがあるんだってことをですね、顔は証明しているってことですよ。俺が世界一、このての顔は世界でただ一人ですから、この顔が証明しているのは才能なんだから、顔が違うってことは、俺の才能も世界一や、またそういうことになってくるわけですよ。どんな人にでも天分と天から分け与えられた独特の才能がある。そして最高の人生を天分のツボにはまる。俺の天分のツボというのは何なのか、それを探し求めて、必ず天分のツボにはまる人生を生きるっていうことを目指さなければならない。才能、天分というのは、どんな職業でも活かすことができる。どんな仕事でも天分は活かすことができる。仕事してる間にだんだんだんだん自分の得意なこと、自分の天分もわかってくる。仕事を通して自分の天分を掴むという、そういう人生を考えなきゃならない。**

**天分はどうしたらわかるのか。天分を発見する方法が5つある。まず、やってみたら好きになるかどうか。やってみて好きにならなかったら天分がないからやったらいかん。やってみて好きになったら天分があるからやらないかん。なんでやってみるということをいうのか。野球見とって好きでも天分と関係ない。能力に関係ない。野球やってみて好きになったら天分がある。野球やってみて好きにならなかったら天分はない。という判断をせんとバーナードね。なんでそうなのか。なんで見てるだけでは能力に関係ないのか。それは遺伝子、DNAは物質なんです。肉体なんです、モノなんです。肉体を動かしてみないと、そのことに対する才能があるかどうかわからな**

**いんですよ。意識で好きや、嫌いやと言ってる分はまったく能力に関係ないんですよ。まずはやってみたら好きなのかどうか、やってみたら興味関心が湧いてくるかどうか。3つ目はやってみたら得手だ、得意だと思えるかどうか。4つ目は人と一緒にやってみたら、いつも自分の方が良くできてしまうかどうか。何回か人に負けることあったら、もうこのことについては俺よりすごいやつは他におるんやから、俺はこれやめといて他のことしようと思わないの。何回誰とやっても勝ってしまうと、俺はやらないかんなとなるわけです。最後の5番目は真剣に取り組んだら問題意識が湧いてくるかどうか。どんだけ真剣に取り組んでも何の問題意識も湧いてこない、言われてることを言われてるままにやってるだけだったらそこにはその人の才能は全くない。才能がちょっとでもあったら、言われたことやってたら、なんかおかしいなと、なんかこうした方がもっといいんやないかなあ、こうしたほうが納得できるなあっていう問題意識が湧いてくる。問題意識が湧いてくるってことは、自分が出てきているんだ。だからそこには何かしら君独特の何かできるものがあるぜっていうことをね、問題意識の湧出が教えてくれてる。ノーベル賞もらうような研究でも、ほかの人はみんなそれでいいじゃんと思ってるところに、なんか俺はちょっと納得できひんなあと思ってしまうところから、研究が始まるんです。問題意識の湧出が俺の才能があることを教えてくれてるんだ。だから問題意識に人生をかけられる。**

**この5つが天分のツボを探り求めていくやり方なんですよ。自分の顔を生き抜けば、自分の顔を生ききったら、必ず世界一の人間になれる。もう顔は何も言わんでも世界一だ。顔が表現するのは能力だ。この能力のツボにハマったら誰でも世界一になれる。オンリーワンかナンバーワンか、どちらかで世界一になれる。**

**証明されてるんです。あとはもうやるっきゃない。諦めないで天分を発見して、 生きる努力をするしかない。2番目はですね、人間の本質は心であり、理性ではない。これまで人間の本質は理性であると言われてきました。理性さえ成長すれば、人間は成長するんだと言われてきました。だけども理性を成長させた結果、何が起こったのかって言ったら、心が死んだ。人間が破壊された。なぜか理性っていうのはみんなに共通するものを作る能力なんですよ。理性的になればなるほど、個性はなくなってしまうんですよ。理性的になればんあるほど、自分が何なのかわからなくなっちゃうんですよ。誰でもない一般的な人間になってしまうのは、理性を原理にした生き方なんですよ。だから理性的な人間は、私って何といって全然わからないんですよ。自分が何なんだかわからないんですよ。だから今そういう状態に陥って、アイデンティティクライシスといわれてですね。本当の自分がわからない。自分がなんだかわからないという病気が蔓延している。ほとんどの人が自分がなんだかわからないんです。だけど、だんだんだんだん今はですね、理屈じゃない、心が欲しいと叫び始めた。**

**理性じゃない、心こそ俺だよなと言い始めて、思い始めている。心ってのは感じるもんだ、感性だ。我々が俺って言ってるのは、実は本音だ、実感だ、欲求だ、感情だ、それが本当の俺なんだ。欲求がないということは俺はないんだよ。欲求のない人間は俺の人生を作れない。欲求が命から湧いてきて、初めて俺の人生が始まるんだ。知らなきゃならない事をしてんのは誰でもない人生だ。俺の人生を生きようと思ったら、命から湧いてくるものを大事にしないといけない。**

**命から湧き上がってくる欲求・欲望・興味・関心・好奇心。これを原理にした時、俺の人生が始**

**まる。欲求が湧いてこなかったら、命は燃えない。命は火がつかない。燃える人生は欲求が作る。せっかく生まれてきたのに、あん時は燃えたよなーって言って、生きて死んで、縁がない人生は感じたことが人生だ。燃えてこそ人生だ。感じた時、最高の喜びは感じなかったら人生は無意味だ。感じてこそ人生、燃えてこそ人生。人間の本質は感性なんだ。感じるって事が人間の一番大事なことなんだ。考えることも大事なんだけど、考えるのは珠算能力だ。自分のしたいことを、どうすれば人の役に立つ方法で実現することができるかなと考えるためには我々は理性を使うんだ。理性は珠算能力だ。理性を俺だと思ったら、人生が不幸になる、幸せが何か分からなくなってしまう。自分がなくなってしまう。自分を捨てたようなもんで、理性的な人間はね。本当の自分を生きようと思ったら、本音と実感、命から湧いてくる欲求・欲望・興味・関心・好奇心、これを大事にする必要がある。それが本当の俺の人生だ。したいことをする。楽しい。意味を感じたらやる気になる。価値や素晴らしさを感じたら命が燃えてくる。命に火がつくんだ。今、自分がやってる仕事でも、自分のやってる仕事の意味や価値や値打ちや素晴らしさを感じたら命に火がつくんだ。やめるって言われても、やめられないとまらないもう働き方改革どころじゃない。やめられない、とまらないかっぱえびせん状態だ。やめられない、どうにもとまらないって山本リンダ状態だ。働き方改革なんてクソくらえ。そんなものにしたがってられるか。とにかく我々は、俺って言ってるものは感性で、欲求で命から湧いてくるものだ。理性は個性を奪う。理性的になればなるほど、自分から遠ざかり、自分が何だかわかんなくなっちゃう。**

**3番目は私とは本音であり実感であり、欲求である。これは今、申し上げたことですね。最後、仕事を通して、人格を作り、人格を磨く。仕事を本当にちゃんと真剣にやって、仕事に成功するためには、何が必要なのかって言ったら、謙虚さと成長意欲と愛。この3つがなかったら、仕事には成功しません。傲慢な人間には誰もついていかない。成長意欲がなかったら会社は発展しない。愛がなかったら人間関係が悪化する。仕事を成功しようと思ったらどうしても謙虚さと成長意欲と愛。この3つが必要だ。この謙虚さと成長意欲と愛この3つを、人間の格っていうんですよ。**

**人間が犬猫ではないという、格を持とうと思ったら、この謙虚さと成長意欲と愛ってものを持つことによって、人間は人間の格を持ったと言える。この人間の格を持つことによって、人間は成長できる。ということは仕事そのものが、成功するためには、必然的に謙虚さと成長意欲と愛ってものを必要とするから作ってくれるんだよね。本当に仕事をちゃんと真面目にやってたら、人格者になる。人格者っていうか人間の格が持てる人間になれる。だけど人格を持っただけでは、ただの人間だ。さらに自分を磨いて行こうと思ったら、人格には高さ、深さ、大きさという3つの成長の方向性がある。我々は仕事をしながら、ただ人格を作るだけじゃない、人間の格をつくるだけじゃない。もっと人格を磨いてですね、人格の高さや人格の深さや人格の大きさを求めていく。そういう目標を立てて仕事をすることによって、さらに素晴らしい人間性ってものを我々はものにすることができます。とにかくは、人格を磨くちゅうことも、観念でやってるんじゃなくて、仕事をしながら、肉体を使って、人格も作り、人格を磨くということをしていかないと、本物にならないし、実力にならないんですね。ぜひ仕事を通して人格を作り、人格を磨くという意識を持って、金を目的にするんじゃない。金を目的にしたら人間は悪賢くなって、人間性が腐る。大事なことは、仕事を通して人間として、本物の人間になろうとする、そういう気持ちがですね、仕事ってものを素晴らしいものにしていくんだってことを、ぜひもう一度考え直してみてもらいたいと思います。今日どうもありがとうございました 。**